

道徳学習指導案

5年3組 32名 指導者 藤谷 祐一郎

本授業は、以下の検証を行うものである。

自分だったらどうするかという立場を明確にして、グループ・ディスカッションを行うことは、道徳的価値をより深く理解し、自己の生き方についての考えを深める手立てとして有効であったか。

1 主題名 真の友情とは（資料名「ロレンゾの友達」〈読み物－文部省読み物資料〉）

2 ねらい

友達と互いに信頼し、理解し合って友情を深め、人間関係を築いていこうとする心情を育てる。
（2－③ 友情・信頼、助け合い）

3 主題について

(1) 主題の価値

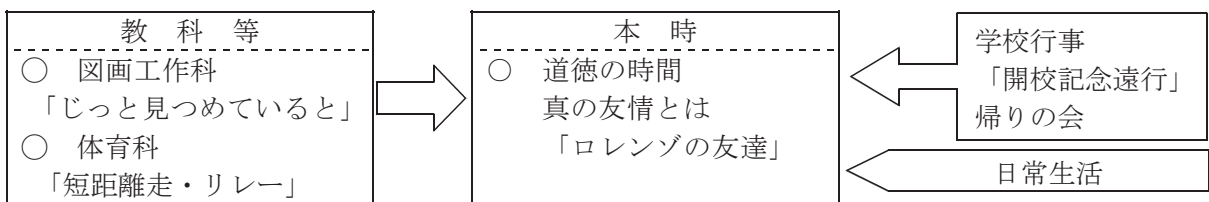
本主題は、2－(3)「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合う。」で、友達関係において基本とすべきことであり、友達との間に信頼と友情及び助け合いの精神をもった子どもを育てようとする内容項目である。これは、低学年の2－(3)「友達と仲よくし、助け合う。」と中学年の2－(3)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」からつながったもので、中学校の2－(3)「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。」に発展するものである。特に、高学年においては、友達同士の相互の信頼の下に、協力して学び合う活動を通して互いに磨き合い、高め合うような、真の友情を育てるとともに、互いに人格を尊重し合う人間関係を築いていくようにすることが求められる。

真の友情は、相互信頼に支えられ、互いに学び合うこと、すなわち互いに励まし合ったり、助け合ったり、時には忠告し合ったりすることで育ち、深められていく。また、人は時として、逆境に立たされることがある。そうした時に友達としてどうあるべきか問われ、相手の立場に立った見方・考え方で、本当に相手の力になることはどういうことか考え続けることが真の友情につながっていくと考える。

この期の子どもは、これまで以上に友達を意識し、仲のよい友達と信頼関係を深めていこうとし、また、流行などにも敏感になり、とすると趣味や傾向を同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向も生まれてくる。そのため、疎外感を感じたり、友達関係で悩んだりすることが今まで以上にみられるようになる。また、気の合った友達でも表面的なつながりで、友達のためになることでも注意や助言ができないでいたり、周りに合わせて行動したりすることもある。

そこで、本主題において、真の友情とは何かを深く考え、友達同士の相互信頼の下に、協力して学び合いながら、互いに切磋琢磨していくような、真の友情のよさを実感することは大変意義のあるものとする。

(2) 他教科等、体験活動との関連



(3) 子どもの実態 平成28年4月18日 調査人数32名 複数回答、()は反応数

① 本当の友情とは、どういうものだと思うか。	【定義・意味の理解】
・ 一緒に過ごす、遊ぶ(9) ・ 助け合う(8) ・ いけない時には注意し合える(6) ・ 優しくする、思いやりがある(5) ・ 仲良くする(5) ・ いじめをしない(5) ・ 悩みを相談できる(4) ・ 協力できる(4) ・ けんかをしても仲直りできる(4) ・ 仲がいいだけでなく、けんかもする(2) ・ 困っていたら助ける(3) ・ 励まし合う(2) ・ 相手の気持ちを大切にできる(2) ・ うそをついたり、裏切ったりしない(1) ・ 何かあった時に守る(1) ・ 失敗を笑わない(1) ・ 信頼できる(1)	
② 本当の友情には、どんなよさがあると思うか。	【意義】
<自分にとって> ・ すっきりする(5) ・ 自信がつく(3) ・ 楽しくなる(3) ・ 助けられる(2) ・ うれしくなる(2) ・ 協力できる(2) ・ 更に仲良くなる(1) ・ いい気持ちになる(1) <相手・周りにとって> ・ いい気持ちになる(5) ・ 笑顔になる(4) ・ 心が温かくなる(4) ・ 助け合える(4) ・ 楽しい生活が送れる(3) ・ 明るくなる(2) ・ いい関係がもてる(1)	

③ 本当の友情を築いていくためには、どんな気持ちが大切か。	【心構え】
・ 思いやり、優しい心(6) ・ 優しくしてあげる(5) ・ いじめや差別をしない(5) ・ 悪いことは悪いと注意する(4) ・ 相手の気持ちを分かろうとする(3) ・ 何かあったら助けようという気持ち(3) ・ 悪口を言わない、暴力をふらない(2) ・ 助け合う(2) ・ 心配する(2) ・ 信じ合う(2) ・ 何があっても友達を守る気持ち(1) ・ うそをつかない(1) ・ 悲しそうな時声を掛ける、励ます(1) ・ もっと仲良くなりたい(1)	

本学級の子どもは、実態アンケート①より、真の友情について、一緒に楽しんだり、仲良くしたり、助けたりすることと捉えている子どもが多いことが分かる。中には仲良くするだけでなく、けんかをするともあると考えている子どももいる。②より、真の友情の意義については、自分にとっても相手や周りにとっても、明るく楽しく過ごすことにつながると理解している子どもがいるが、多くの子どもがその意義にあまり具体的な考えをもてていないことも分かる。また、③より、その心構えについては、相手のためにしてあげることが多く挙げられていることが分かる。

そこで、真の友情には、相手のために一方が何かするのではなく、互いに相手のためになることを考え、忠告し合うなど切磋琢磨することの大切さに気付くことができるようにしたい。

(4) 資料について

本資料は、アンドレ、サバイユ、ニコライの3人の友人が、何らかの罪を犯したかもしれないロレンゾに対し、友達としてどのように対応するかを話し合うという話である。

本資料では、3人の友人が、罪を犯した友達を逃がしてあげるべきか、自首を勧めるべきか、警察に知らせるべきか悩み葛藤する姿が描かれている。3人のそれぞれの考えは、いずれもロレンゾのことを思う気持ちは共通しており、異なる点は、友達についての理解と、本当に相手の力になるということはどういうことかについての捉え方である。3人の考えはどれも友達として共感できるところがあるため、子どもは、3人の胸の内を想像し、自分だったらどうするかと考えることができる。そして、3人に成り代わって語り合ううちに、真の友情とは何かを考え、安易に同調せずに、友達だからこそ厳しい決断を下すことも必要な場合があるということやたとえ結論が出なくても友達のために親身になって考えることにこそ価値があるということに気付くことができる資料である。

4 指導に当たって

「見つめる」活動では、まず、事前に行ったアンケート結果を提示し、子ども一人一人が考えている本当の友情について見つめさせ、焦点化を図るようにする。次に、「本当の友情とは、友達に何かしてあげることなの。」などの揺さぶり発問をすることで、「本当の友情とは、どういうものだろう。」という共通の問題意識をもつことができるようにする。

「問い直す」活動では、まず、3人の友人が何らかの罪を犯したかもしれないロレンゾに対して友達としてどのような行為をするのかを板書で整理することで、問題場面を焦点化できるようにする。その際、3人のロレンゾへの思いを出し合い、それぞれの友達を思う気持ちに共感できるようにする。次に、3人の友人の中で自分は誰の考え方に賛成か考え、「見える図」を活用し、自分の体験を関連付けながら、その理由をまとめるようにする。その後、ネームカードを黒板に貼って自分の立場を明確にした上で、グループ・ディスカッションを行うようにする。その際、「つなぐ」名人カードを活用して、「例えば」「つまり」など子ども同士で考えをつなぎながら対話活動を行うようにする。そうすることで、互いの考えをより深く理解し、多様な考え方に気付くことができるようにする。さらに、グループ・ディスカッションを基に、3人の立場やその理由を全体で整理して話し合うようにする。その際、賛成理由のみではなく、反対理由を取り上げるようにしたり、教師が「警察に知らせるなんて、友達なのに本当にできるのか。」などの反例を挙げたりすることで、3人の揺れる思いや真剣に友達のことを考えている姿に共感することができるようにする。その中で、本当の友情とは何かを考えて、真剣に友達のことを考えることの尊さに気付く、道徳的価値の理解を深めることができるようにする。

「振り返る」活動では、資料によって深まった自分の考えを発表することで、再構築した考えを明確にし、これからの自分の生き方についての考えを深めることができるようにする。

「あたためる」活動では、教師が見取った日常生活において友達のことを真剣に考え、互いに高め合う様子を紹介することで、これからの実践に向けて意欲を高めることができるようにする。

5 本時の展開



重点化するスキル



子どもの意識



指導の手立て



※ 評価

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
見つめる	(分) 5	1 アンケート結果を基に、本時のめあてをつかむ。 - 困っている時、助けてくれる。 - 相手の気持ちを考えてくれる。 本当の友情とは、どういうものだろう。	○ 本当の友情についてのアンケート結果を提示して、子ども一人一人が考えていることを確かめながら揺さぶることで、「本当の友情とは、どういうものだろう。」という共通の問題意識をもつことができるようにする。
問い直す	30	2 資料「ロレンゾの友達」を読んで、話し合う。 (1) ロレンゾを待っているときの3人の考えについて整理しながら話し合う。 比較する (2) アンドレ、サバイユ、ニコライの中で、誰の考えに賛成か自分の立場を明確にして、グループ・ディスカッションを行う。 関連付ける ＜アンドレに賛成＞ - 警察に知らせるのはかわいそう。 - 友達だから、助けたい。 ＜サバイユに賛成＞ - 無理には警察に連れて行けない。 - 友達の意思を尊重したい。 ＜ニコライに賛成＞ - だめなものはだめと気付かせたい。 - びくびくして逃げ続けたら、かえって苦しませる。 (3) グループ・ディスカッションを基に、3人の立場やその理由から、本当の友情について全体で整理して話し合う。 関連付ける 3人の行為は違っても、それぞれロレンゾのことを真剣に思っている。 - 本当の友情とは、先のことを考え、悪いことは悪いということだ。	○ 問題場面を焦点化しやすいように、事前に本文を一読して、3人の考えを色分けしてサイドラインを引くようにする。 ○ 3人が友達としてどのような行為をするのかを板書で整理し、ロレンゾへの思いを出し合うことで、それぞれの友達を思う気持ちに共感できるようにする。 ○ 3人の中でどの考えに賛成か考え、「見える図」を活用して、自分の体験を関連付けながら、その理由をまとめるようにする。 ○ ネームカードを黒板に貼って自分の立場を明確にした上で、グループ・ディスカッションを行うようにする。その際、「つなぐ」名人カードを活用して、「例えば」「つまり」など子ども同士で考えをつなぎながら対話活動を行うようにする。 ○ 全体での話し合いにおいて、賛成理由のみではなく、反対理由を取り上げるようにしたり、教師が「警察に知らせるなんて、友達なのに本当にできるのか。」などの反例を挙げたりすることで、3人に共通する思いや真剣に友達のことを考えることの尊さに気付くことができるようにする。
振り返る	7	3 本時の学習で分かったことやこれまでの自分を振り返ってできた体験や気持ちについて話し合う。 - 本当の友情とは、友達のことを真剣に考えることだ。 - これまでは、いけないと思って怖くて友達に注意できなかった。 - 友達だからこそ、いけないことはいけないと注意していきたい。	※ 振り返る活動における子どもの考えを机間指導において次の視点で評価する。 (ワークシート・道徳ノート) ア 道徳的価値についての理解をより深めることができたか。 イ これまでの自分との関わりで考えることができたか。 ウ これからの自分の生き方について考えることができたか。
あたためる	3	4 教師の説話を聞く。 これからも、友達と信頼し合って互いに励まし、教え合い、本当の友情を築いていきたいな。	○ 日常生活において、友達のことを真剣に考え、互いに高め合う様子を紹介することで、これからの実践に向けて意欲を高めることができるようにする。